

IGIによるインプラント埋入ナビゲーションシステムの症例報告(北海道医療大学歯学会第25回学術大会 一般講演抄録)

著者名(日)	松原 秀樹, 木村 和代, 仲西 康裕, 油井 知雄, 亀澤 広子, 廣瀬 由紀人, 草野 薫, 細川 洋一郎, 工藤 勝, 大桶 華子, 田中 隆, 古賀 剛人, 越智 守生
雑誌名	北海道医療大学歯学雑誌
巻	26
号	1
ページ	47
発行年	2007-06
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00010010/

フィクスチャーの長さの平均値が、上顎において4番以降遠心に埋入するのにしたがって短くなる傾向がみられた。一方、フィクスチャーの脱落は9本(3.81%)あり、そのうち上顎臼歯部が8本であった。これは、上顎が下顎に比較し骨質が軟弱で初期固定が得られにくいことと、上顎洞による制約でフィクスチャーが短くなる傾向

によるものと思われた。

【結論】今回の結果により、インプラント成功の局所的条件として「初期固定」がいかに重要であるかが再認識できた。今後は、個体差や埋入部位の特徴を考慮し、より適切なフィクスチャーと埋入術式を選択し、成功率を上げる努力をしていきたいと考えている。

IGIによるインプラント埋入ナビゲーションシステムの症例報告

○松原秀樹*, 木村和代*, 仲西康裕*, 油井知雄*, 亀澤広子*
廣瀬由紀人*, 草野 薫**, 細川洋一郎***, 工藤 勝****
大桶華子****, 田中 隆****, 古賀剛人*****; 越智守生*

*北海道医療大学歯学部歯科補綴学第二講座, **口腔外科学第二講座,
歯科放射線学講座, *歯科麻酔学講座,
*****北海道医療大学歯科内科クリニック歯科技工部,
*****古賀テクノガーデン歯科

【目的】北海道医療大学歯科内科クリニック歯科インプラント専門外来では、より安全で正確なインプラント手術を患者に提供するために、2005年度よりIGI (Image Guided Implantology) システムを導入してインプラント埋入手術を行っている。IGIシステムはイスラエルで開発された製品で、特徴としてはCTより得られた情報をモニター上で三次元画像化し、インプラント手術をリアルタイムでナビゲーションすることを可能にしたシステムである。今回、本学インプラント専門外来と古賀テクノガーデン歯科において、IGIシステムを使用しインプラント埋入手術を行った症例をいくつか経験したので報告する。

【方法】対象はIGIシステムの使用によるインプラント埋入手術に同意を得た17症例とした。従来の埋入手術と異なる点は、IGIシス

テム本体の設置と、それに付属する専用ハンドピースやホースシュー、位置情報を発信するLED装置などであり、それ以外の手術環境は従来のものと変わらないものである。

【結果および考察】

1. インプラント埋入患者は女性11名、男性6名の計17名であった。本数は合計で61本であった。
2. 上顎は6症例、下顎は11症例であった。
3. 手術後の経過は全症例で良好に推移している。

【結論】IGIシステムによるインプラント埋入手術は、短時間で手術侵襲を最小限に抑えられ、さらに安全性と正確性では従来の術式より優れていると考えられた。

石狩市成人基本検診における歯周組織と全身の健康状態との関連性

○山下浩朗, 小林孝雄, 中島啓介, 森 真理, 加藤幸紀, 伊藤泰城,
山崎 厚, 衣笠裕紀, 湯本泰弘, 阿部博明, 白井 要,
粟倉あずさ, 石崎晴彦, 古市保志
北海道医療大学歯学部歯科保存学第一講座

【目的】これまで心疾患や糖尿病などの全身疾患と歯周病との関連が多く報告されている。そこで石狩市成人基本検診の受診者に歯科検診を実施し、歯周組織の状態と成人基本検査結果を比較・検討し、歯周病と全身の健康状態の関連を明らかにする。

【方法】平成18年度石狩市で実施された成人基本健診において、口腔内に関するアンケート調査とCPIを用いた口腔内診査を行った。検診の際に本研究の主旨を説明し、同意の得られた受診者の結果を解析に用いた。対象者を3.5mm以上のポケットを有する歯周病群(CPI CODE: 3, 4) (P群: 103名)と有していない健常者群(CPI CODE: 0, 1, 2) (N群: 120名)の2群に分け、成人基本健診結果(身長, 体重, 血圧, 各種血液検査値, 各種尿検査値)との比較を行った。

【結果および考察】歯科検診受診者は274名で、本研究の参加に同意を得られた者は262名であった。さらに成人基本健診結果を得ら

れた者は223名(男性: 56名, 女性: 167名)で、これらを解析の対象者とした。対象者の平均年齢は52.8才(P群: 55.1才, N群50.9才)で、平均残存歯数は24.5本(P群: 23.5本, N群24.5本)であった。統計学的有意差が認められたのはGOT (P群: 23.0IU/l, N群20.8IU/l), GPT (P群: 21.7IU/l, N群18.6IU/l), 空腹時血糖値 (P群: 90.2mg/dl, N群86.8mg/dl)であった。いずれの結果も歯周病群の方が健常者群に比べ有意に高い結果であった。今回、GOT, GPTが歯周病群の方で有意に高い結果であったが、今後その関連性について詳細な検討を加えていく予定である。また、歯周病に罹患している群の方が健常者の群に比べ糖尿病の指標の一つである空腹時血糖が有意に高かったことは、歯周病と糖尿病との関連を示唆し、歯周病が全身の健康状態と何らかの関連があることを示唆している。